

大阪有機化学工業株式会社	
2018 年 11 月期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨	
日 時	2019 年 1 月 11 日（金） 13：00～14：00
場 所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 （東京都中央区日本橋 1-9-1；野村証券本館 6 階）
当社出席者	・代表取締役社長 上林 泰二 ・常務取締役 執行役員経営企画本部長 兼技術本部・事業開発室管掌 安藤 昌幸 ・取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一
参考資料	「会社説明会および 2018 年 11 月期決算説明会資料」 （2019 年 1 月 11 日ホームページに掲載）

※この資料は、2019 年 1 月 11 日に開催された、機関投資家向け決算説明会（2018 年 11 月期）における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

Q-1-1	半導体材料の今後の見方について教えてほしい。
A-1-1	当社の半導体用モノマーについては、顧客からのヒアリングでも足下は堅調が続いており、今後も一昨年のような大きな販売増はないものの、将来的な 3～4 年のスパンでは堅調と予想する。今後の増加分は、今年 3 月に完成する新しい設備で対応していく。
Q-1-2	2018 年営業利益の増減要因で、上期より下期の方が原料費・経費が増加しているが、2019 年予算ではどう織り込んでいるのか。
A-1-2	2019 年上期は、原料費・経費は前年比で増加する。また設備投資の増加により、下期は減価償却費が増加すると予想しており、2019 年通期では売上高は 5%増加するが、利益は横ばいとなる。
Q-1-3	修繕費・手数料は、2018 年かなり多かったが、2019 年はどう見ているか。
A-1-3	当社では毎年一定の修繕費が必要で、2019 年も大きく減少することはない。
Q-1-4	欧州・中国の自動車販売が落ち込んでいるが、業績に与える影響を教えてほしい。
A-1-4	自動車の販売台数については、特に中国で急速に悪化しており、モノマーの出荷量も弱含みを予想しているが、塗料以外の用途もあり、一時的に販売が減少しても、大きく下がらないと考えている。中国で生産されていないモノマーは、売り上げも伸びており、特徴のある製品にシフトしていくことで、業績を維持していく。

Q-1-5	売上増・経費増のトータルで見ると、いつも通りの保守的な業績予想と捉えていいのか。
A-1-5	当社の業績予想のポイントは、半導体・液晶・インクジェット・自動車塗料分野の市場動向。半導体材料は堅調だが、液晶ディスプレイ材料はピークを迎えた市場である事、また、今期は大型の設備投資もあり、設備投資額も 57 億円と大きく、これらを含んだ利益予想となっている。
Q-2-1	設備投資について、前期 30 億円弱の予算から 17 億円の到達にとどまった理由はないか。
A-2-1	(2018 年度の) 投資が 13 億円ほど減った理由は、研究棟の増床と分析機器の投資及び、インフラ設備のなかのユーティリティー設備の一部が 2019 年度へずれ込み、その合計が 13 億円ほどになる。
Q-2-2	前回の説明会では、3 年間で 90 億円という投資計画を掲げていたが、今期 57 億円で、来期以降の投資金額はどうなるのか。
A-2-2	3 年間で 90 億円以上という計画を掲げた件について、今期 57 億円を予定しており、その残りが 2020～2021 年へ続いていく。戦略的な製造設備投資と修繕及びインフラ整備を継続し、新たな研究開発投資を行わないと成長は厳しいと考えている。今期は色々重なった部分もあり大きな投資額となるが、その後も継続して投資を行う。
Q-2-3	今回の投資によって、生産キャパはどれくらい増えるのか。
A-2-3	生産キャパについては正確な数字は控えさせていただくが、感覚的には 2～3 割。ただ、最先端の材料になるほど品質管理面などが厳しく、製造設備の環境を整える必要があり、従来の設備ではなく、新たな設備でないと製造できない。特に半導体など特殊なものが該当する。第 1 弾として、今年 3 月に完成する半導体材料設備があるが、その後も状況を判断しながら、投資の継続が必要と考えている。

以上